

「びわこ文化公園都市について」アンケート調査結果

1. 調査概要

びわこ文化公園都市の認知度などを把握するため、下記の要領で県政モニターアンケートを実施した。

【実施時期】 平成 23 年（2011 年）10 月

【対象者】 県政モニター（352 人）

【回答数】 280 人（回収率：79.5%）

【担当部課】 総合政策部企画調整課

【調査目的】 びわこ文化公園都市に対する県民の認知度、利用状況等を把握し、検討委員会での議論の参考とすることを目的として実施。

2. 調査結果

アンケート調査の結果は下記のとおりである。

回答者属性

男女比は男性が約 56%、女性が約 44%で、年齢区分は 60 歳代が最も多い。また、居住地は大津地域が約 33%と多くなっている。

表 - 1 性別

項目	回答数	割合
1 男性	157	56.1%
2 女性	123	43.9%
計	280	100.0%

表 - 2 年齢区分

項目	回答数	割合
1 10・20歳代	22	7.9%
2 30歳代	56	20.0%
3 40歳代	61	21.8%
4 50歳代	43	15.4%
5 60歳代	69	24.6%
6 70歳以上	29	10.4%
計	280	100.0%

表 - 3 居住地

項目	1 大津地域	2 湖南地域	3 甲賀地域	4 東近江地域	5 湖東地域	6 湖北地域	7 高島地域	計
回答数	93	83	23	39	16	17	9	280
割合	33.2%	29.6%	8.2%	13.9%	5.7%	6.1%	3.2%	100.0%

びわこ文化公園都市の認知度

Q1. これまで、「びわこ文化公園都市」という名称を聞いたことがありますか。また、行ったことがありますか。（回答チェックは1つだけ）

びわこ文化公園都市の認知度は、「名称を知っていて、行ったことがある」と「名称は知っているが、行ったことがない」の回答を合計すると 47.5%で、約半数の認知度となっている。また、「行ったことがあるが名称を知らない」との回答が約 32%である一方、「名称も知らないし、行ったこともない」との回答が約 20%で、びわこ文化都市の名称についての認知度はそれほど高くない。

表 - 4 認知度

項目	回答数	割合
1 名称は知っていて、行ったこともある(居住している・居住していた)	110	39.3%
2 名称は知らなかったが、行ったことはある(居住している・居住していた)	90	32.1%
3 名称は知っているが、行ったことはない	23	8.2%
4 名称も知らないし、行ったこともない	57	20.4%
計	280	100.0%

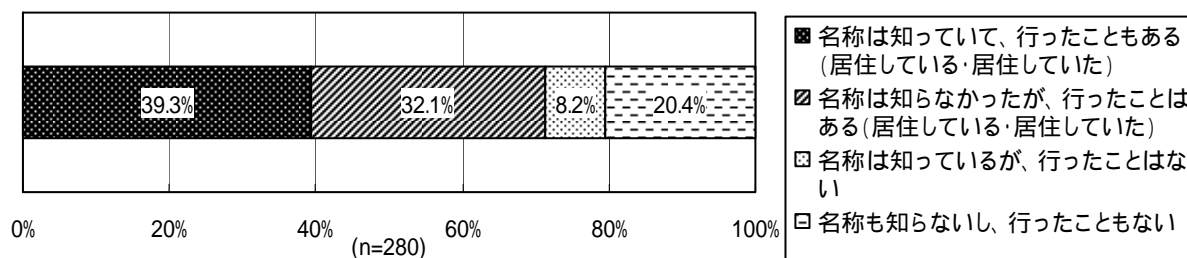


図 - 1 認知度

来訪歴

Q2 - 1 . これまでに行ったことがある、びわこ文化公園都市の区域内的の施設や機関等すべてにチェックしてください。(複数回答)

びわこ文化都市の施設への来訪歴のうち、最も多いのが県立図書館(75%)で、次に県立近代美術館(74%)、滋賀医科大学付属病院(59.5%)、立命館大学びわこ・くさつキャンパス(53.5%)、都市公園びわこ文化公園(40.5%)、龍谷大学瀬田キャンパス(39%)と続く。

また、住宅地への来訪も33.5%である。

こうした結果から、当該地域に立地する文化、学術・教育、医療施設への来訪歴が多い結果となっている。

表 - 5 来訪歴

項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1 県立アイスアリーナ	45	22.5%	15 歯科技工士専門学校・総合センター	2	1.0%
2 龍谷大学瀬田キャンパス	78	39.0%	16 びわこ学園医療福祉センター草津	6	3.0%
3 都市公園びわこ文化公園	81	40.5%	17 精神保健福祉センター	8	4.0%
4 県立近代美術館	148	74.0%	18 精神医療センター	4	2.0%
5 県立図書館	150	75.0%	19 草津養護学校	5	2.5%
6 県埋蔵文化財センター	55	27.5%	20 むれやま荘	7	3.5%
7 東大津高校	38	19.0%	21 障害者更生相談所	3	1.5%
8 滋賀医科大学	45	22.5%	22 障害者福祉センター	11	5.5%
9 滋賀医科大学付属病院	119	59.5%	23 メイプル滋賀工場	1	0.5%
10 日赤滋賀県赤十字血液センター	42	21.0%	24 京都大学生態学研究センター	3	1.5%
11 長寿社会福祉(レイカディア)センター	47	23.5%	25 立命館大学びわこ・くさつキャンパス	107	53.5%
12 福祉用具センター	12	6.0%	26 住宅地(大津市青山・松が丘・草津市若草)	67	33.5%
13 社団法人滋賀県薬剤師会	0	0.0%	27 その他	2	1.0%
14 中央子ども家庭相談センター	11	5.5%			

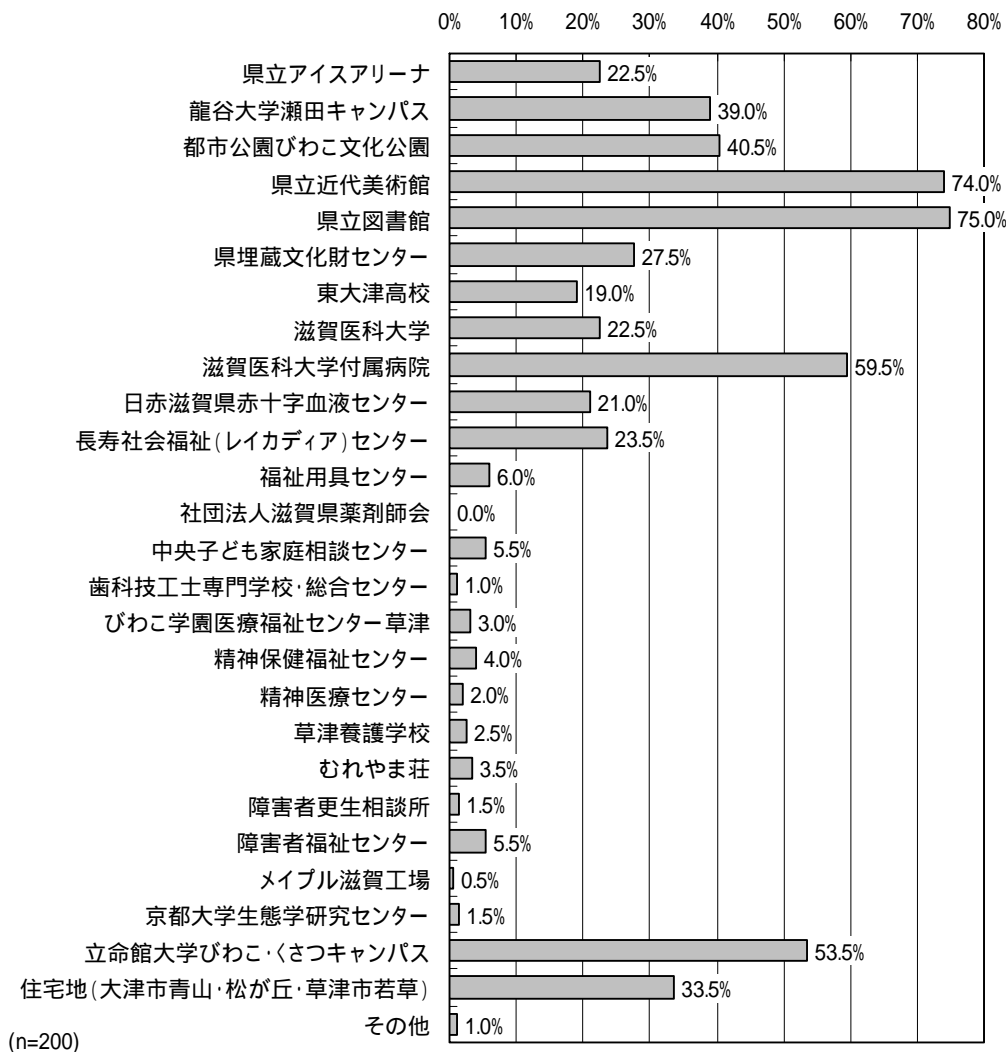


図 - 2 来訪歴

その他の施設・機関等

-

来訪目的

Q 2 - 2 . びわこ文化公園都市に行かれた目的すべてにチェックしてください。(複数回答)

来訪目的をみると、「図書館利用」、「美術・文化財観賞」などの文化行動が70%近くを占める。さらに、「イベント参加」が42%と当該施設への催しの参加も多いことがわかる。

また、「見舞い・面会」が33%で「治療リハビリ」が29%と医療・福祉関連行動が全体の1/3程度をしめ、さらに「受講」が30%と生涯教育の場ともなっている。

次に、「散策・散歩」ならびに「レクリエーション」がそれぞれ約35%、約23%で、当該地域の公園や緑の利用を併せると約50%になる。

また、その他の目的として、花見やボランティア、研修などもあげられている。

このように、びわこ文化公園都市に立地する施設の特性に添って、来訪目的は多様である。

表 - 6 来訪目的

項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1 図書館利用	144	72.0%	11 調査	10	5.0%
2 美術・文化財鑑賞	143	71.5%	12 研究	8	4.0%
3 イベント参加	84	42.0%	13 受講	60	30.0%
4 通勤	11	5.5%	14 指導	2	1.0%
5 通学	9	4.5%	15 物品購入	10	5.0%
6 相談	14	7.0%	16 散策・散歩	69	34.5%
7 献血	26	13.0%	17 レクリエーション	45	22.5%
8 治療・リハビリ	58	29.0%	18 居住	5	2.5%
9 送迎	37	18.5%	19 その他	14	7.0%
10 見舞い・面会	66	33.0%			

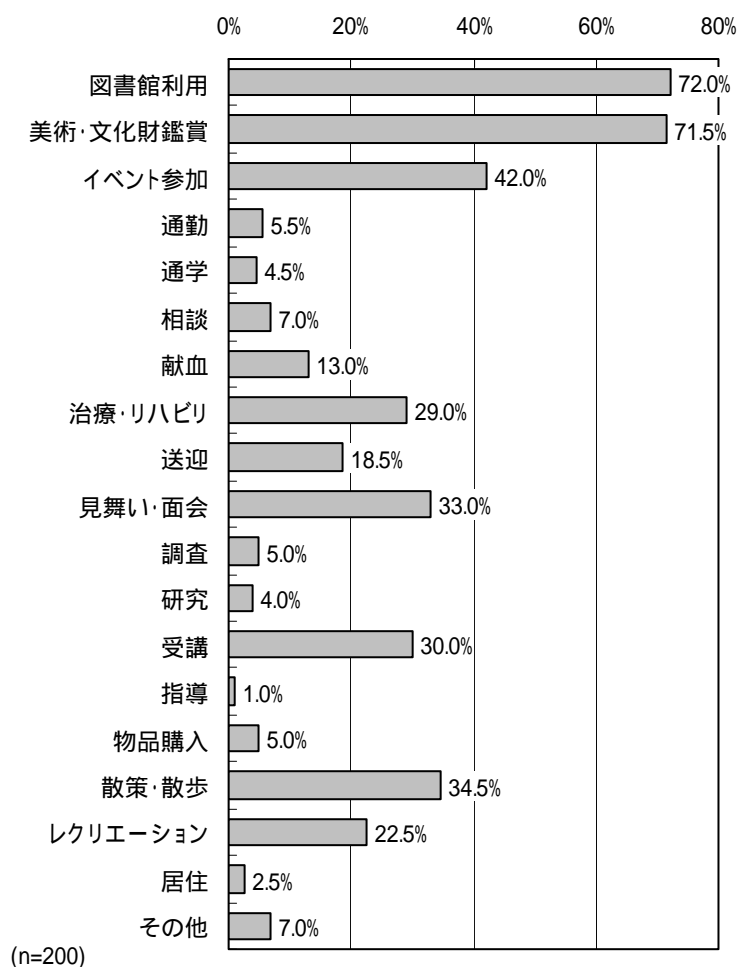


図 - 3 来訪目的

その他の目的

- | | |
|---------|--------|
| ・花見・友人 | ・知人宅訪問 |
| ・ボランティア | ・受験 |
| ・研修 | |

利用交通手段

Q2 - 3 . びわこ文化公園都市に行かれた際の、交通手段の利用状況についてお尋ねします。次の各交通手段について、利用状況をお答えください。(各項目回答チェックは1つだけ)

当該地域への利用交通手段のうち、「よく利用する」との回答は、自家用車が約79%と大半を占め、路線バスが約12%と続く。その他としては、バイクや観光バス、コミュニティバス(草津市まめバス)、車椅子などの回答が得られた。

この結果、当該地域へは自家用車を利用手段とし、路線バスが補完している結果となっている。

表 - 7 利用交通手段

項目	1 よく利用する	2 たまに利用する	3 利用しない	計
1 路線バス	23 11.5%	52 26.0%	125 62.5%	200 100.0%
2 タクシー	3 1.5%	16 8.0%	181 90.5%	200 100.0%
3 自家用車	157 78.5%	21 10.5%	22 11.0%	200 100.0%
4 自転車	10 5.0%	21 10.5%	169 84.5%	200 100.0%
5 徒歩	5 2.5%	23 11.5%	172 86.0%	200 100.0%

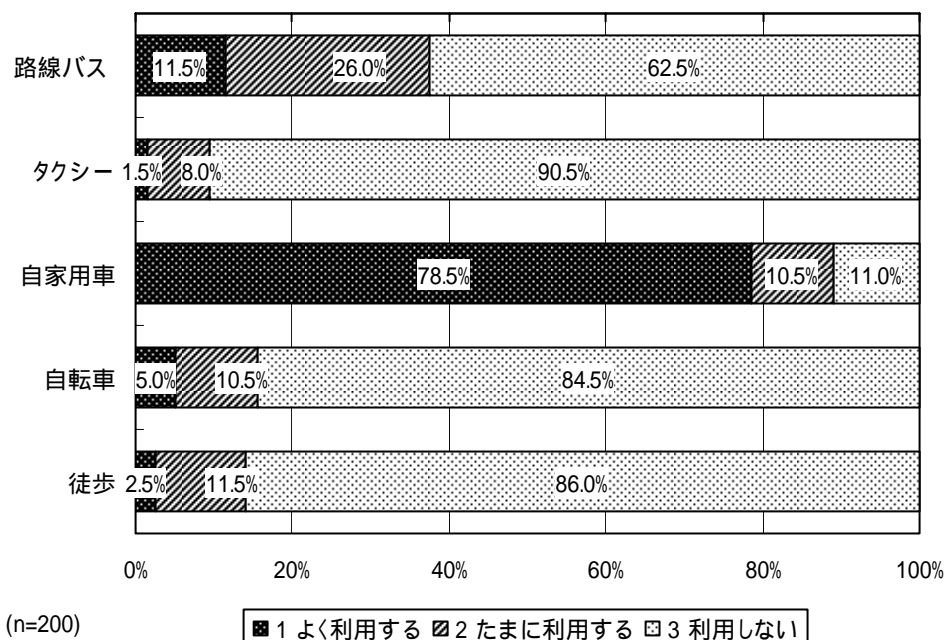


図 - 4 利用交通手段

その他の交通手段

- ・バイク
- ・観光バス
- ・車椅子
- ・その他自動車(営業車・公用車)
- ・コミュニティバス(草津市まめバス)

びわこ文化都市のイメージ

Q3. びわこ文化公園都市のイメージについてお尋ねします。次の各項目ごとに、イメージされる程度をお答えください。(各項目ごとに回答チェックは1つだけ)

びわこ文化都市のイメージとして最も多いのが「自然・緑が豊かで癒される」で、「そう思う」と「少し思う」との回答を併せると約91%になる。

表 - 8 びわこ文化都市のイメージ

項目	1 そう思う	2 少し思う	3 あまり思わない	4 思わない	5 わからない	計
1 自然・緑が豊かで癒される	149 53.2%	107 38.2%	12 4.3%	7 2.5%	5 1.8%	280 100.0%
2 学生など若い人が多く活気がある	66 23.6%	113 40.4%	80 28.6%	13 4.6%	8 2.9%	280 100.0%
3 文化的な雰囲気があり心豊かになる	99 35.4%	126 45.0%	40 14.3%	8 2.9%	7 2.5%	280 100.0%
4 県内の他地域にはない専門的・高度な機能がある	64 22.9%	113 40.4%	69 24.6%	14 5.0%	20 7.1%	280 100.0%
5 将来的に発展の可能性がある	45 16.1%	120 42.9%	78 27.9%	23 8.2%	14 5.0%	280 100.0%
6 交通の利便性がよい	16 5.7%	40 14.3%	106 37.9%	105 37.5%	13 4.6%	280 100.0%
7 様々な年代の人々が利用している	68 24.3%	120 42.9%	55 19.6%	21 7.5%	16 5.7%	280 100.0%
8 立地する大学のノウハウが地域づくりに活かされている	17 6.1%	93 33.2%	97 34.6%	33 11.8%	40 14.3%	280 100.0%
9 立地する機関・施設が効果的に連携している	14 5.0%	93 33.2%	90 32.1%	35 12.5%	48 17.1%	280 100.0%
10 京阪神圏と名古屋圏の結節点として機能している	13 4.6%	23 8.2%	116 41.4%	96 34.3%	32 11.4%	280 100.0%
11 閑静な住宅地	50 17.9%	124 44.3%	59 21.1%	14 5.0%	33 11.8%	280 100.0%

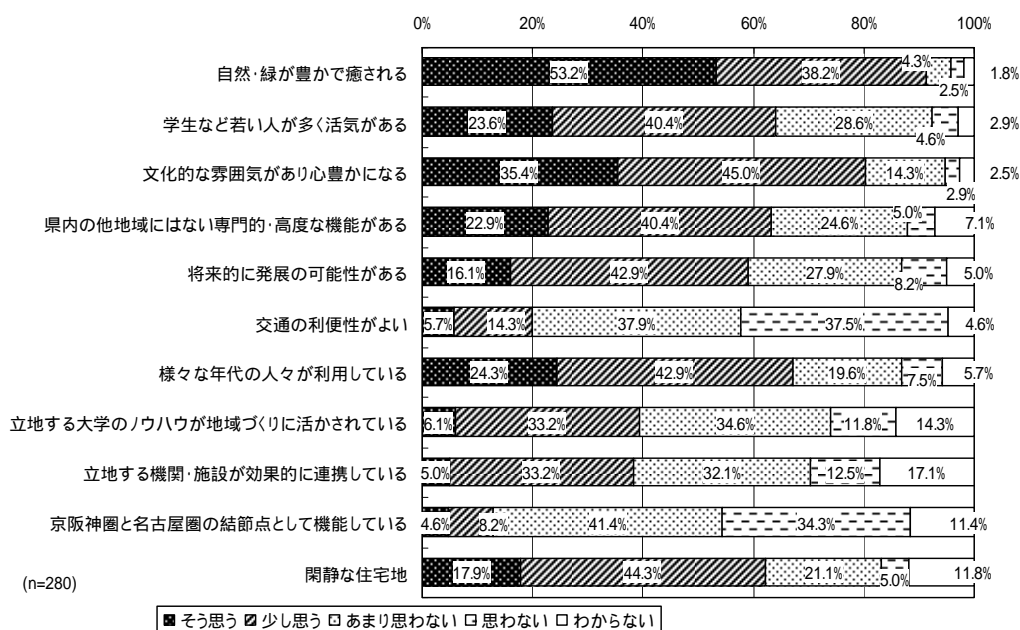


図 - 5 びわこ文化都市のイメージ

その他のイメージ

- ・有効利用されていない、惜しい空間と思う
- ・交通の便が非常に悪い(自家用車がないと気軽に行けない)

びわこ文化都市への期待

Q4. 将来、びわこ文化公園都市にどのような機能や役割を期待されますか。次の各項目ごとに期待される程度をお答えください。(各項目ごとに回答チェックは1つだけ)

びわこ文化都市への期待は「高度・専門的な医療の拠点」、「文化・芸術の拠点」、「学術・研究の拠点」、「安全に憩える整備された公園」がそれぞれ40%を超えており、立地施設の機能をより一層充実させることが期待されている。

表 - 9 びわこ文化都市への期待

項目	1 そう思う	2 少し思う	3 あまり思わない	4 思わない	計
1 高度・専門的な医療の拠点	129 46.1%	111 39.6%	34 12.1%	6 2.1%	280 100.0%
2 高度・専門的な福祉の拠点	90 32.1%	124 44.3%	52 18.6%	14 5.0%	280 100.0%
3 文化・芸術の拠点	133 47.5%	112 40.0%	29 10.4%	6 2.1%	280 100.0%
4 学術・研究の拠点	121 43.2%	121 43.2%	32 11.4%	6 2.1%	280 100.0%
5 産業創出の拠点	38 13.6%	108 38.6%	111 39.6%	23 8.2%	280 100.0%
6 人材育成の拠点	83 29.6%	132 47.1%	53 18.9%	12 4.3%	280 100.0%
7 安全に憩える整備された公園	122 43.6%	115 41.1%	34 12.1%	9 3.2%	280 100.0%
8 都市近郊に残る貴重な森林	109 38.9%	127 45.4%	34 12.1%	10 3.6%	280 100.0%
9 健康維持向上や介護予防のためのフィールド	74 26.4%	139 49.6%	57 20.4%	10 3.6%	280 100.0%
10 多くの県民が集い、交流するフィールド	81 28.9%	119 42.5%	67 23.9%	13 4.6%	280 100.0%
11 閑静な住宅地	50 17.9%	126 45.0%	83 29.6%	21 7.5%	280 100.0%

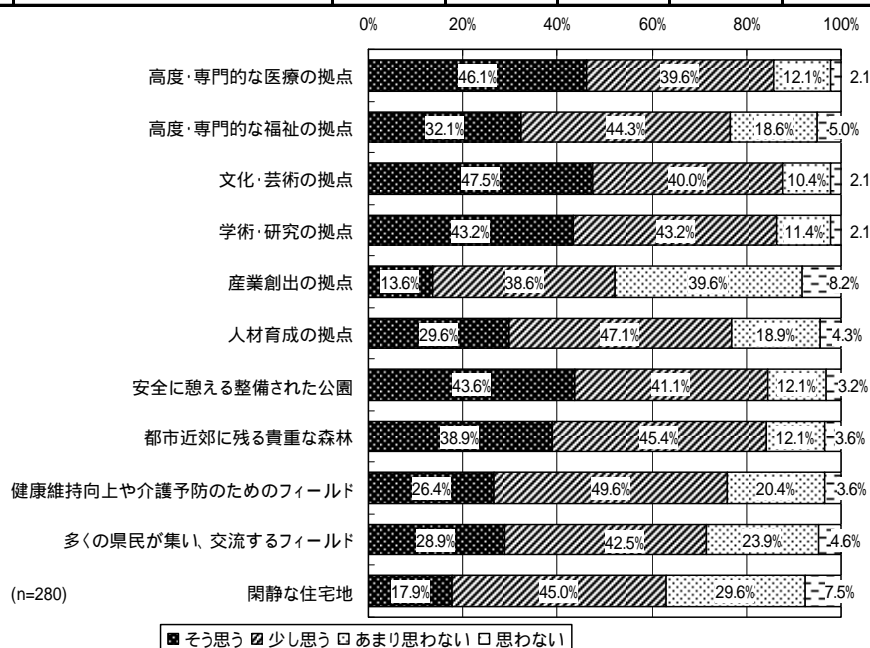


図 - 6 びわこ文化都市への期待

その他のイメージ

・交通至便。広報でいつも案内されている地域

3. 調査結果の分析

(1) 認知度・利用経験との相関

回答者の居住地とびわこ文化公園都市の認知度・利用経験との相関をみると、びわこ文化公園都市の所在する大津地域、湖南地域では利用経験が約8割に達する一方、湖東地域、湖北地域では5割以下の認知度、利用経験となっている。

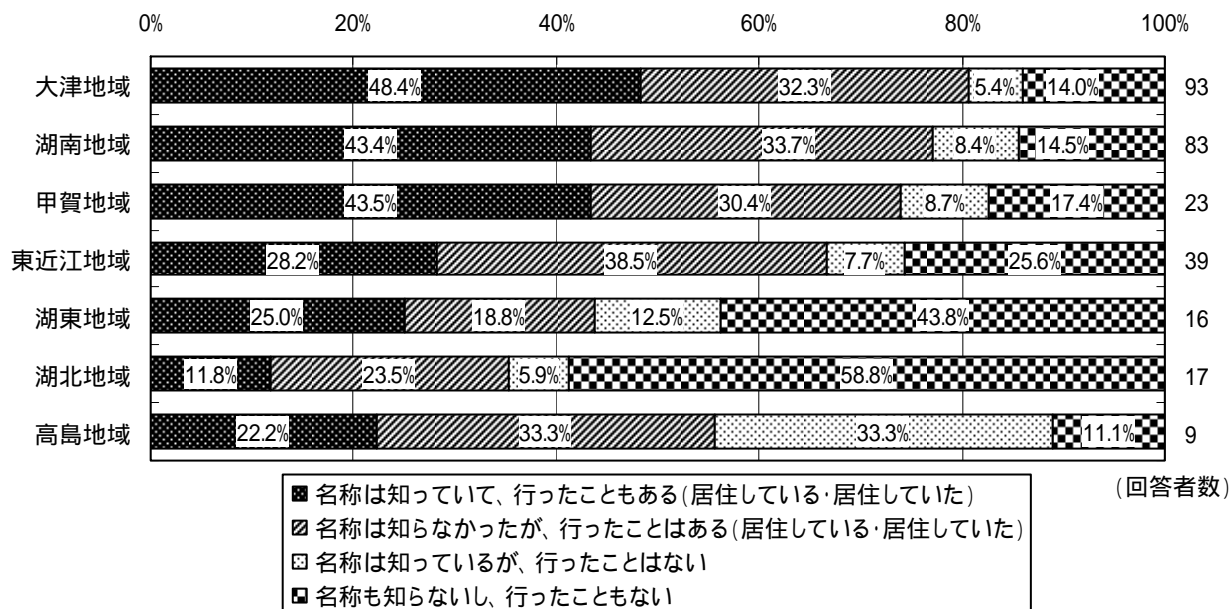


図 - 7 びわこ文化公園都市の認知度・利用経験と回答者居住地の相関

回答者の年齢区分と認知度・利用経験との相関をみると、年齢が高くなるほど認知度、利用経験は上昇し、10歳代～30歳代で約5割程度である利用経験が60歳代以上では約8割となる。

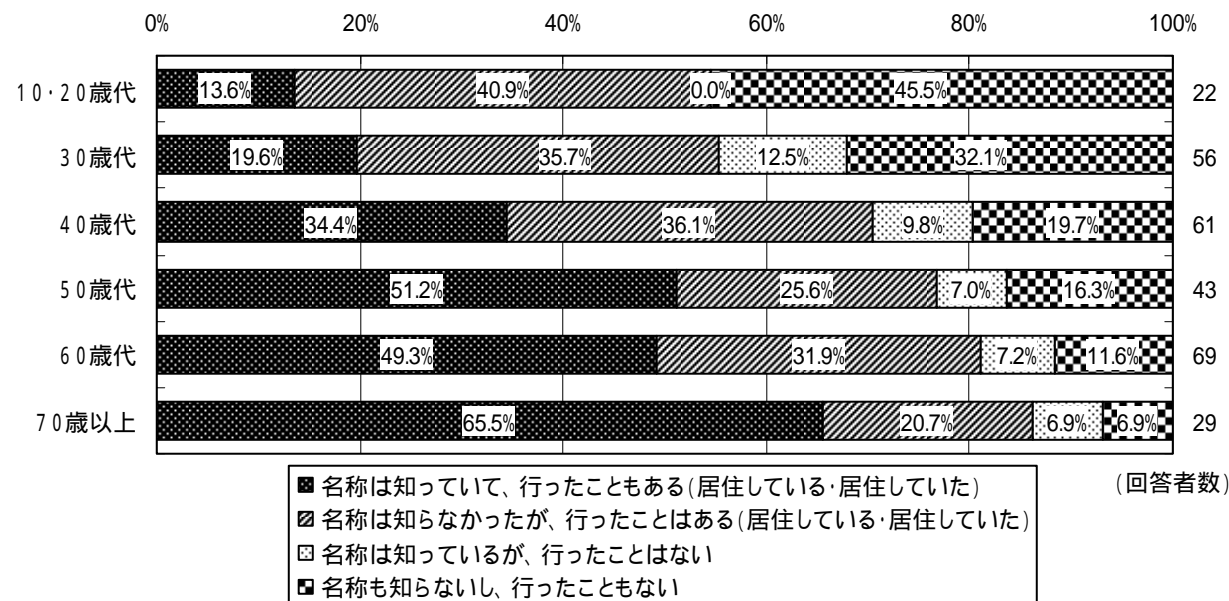


図 - 8 びわこ文化公園都市の認知度・利用経験と回答者年齢区分の相関

(2) 利用施設との相関

びわこ文化公園都市の区域内の施設・機関等について、施設の目的・機能ごとに「芸術・文化」「医療・福祉」「教育・研究」「レクリエーション」「住宅」「その他」に区分し、調査結果との相関を分析した。

びわこ文化公園都市の利用施設区分と回答者年齢区分の相関をみると、芸術・文化施設の利用が40歳代～50歳代にかけて比較的割合が高くなっている。

医療・福祉施設は、70歳以上で約30%を占める他は各年齢区分とも25%前後となっている。

また、教育・研究施設は10・20歳代で約34%となるのに次いで、60歳代約29%、70歳以上約26.2%と高い割合を示しており、生涯学習の場として利用されていることが伺える。

表 - 10 びわこ文化公園都市 施設区分

施設名	施設区分	
4 県立近代美術館	芸術・文化	
5 県立図書館		
6 県埋蔵文化財センター		
9 滋賀医科大学付属病院		医療・福祉
10 日赤滋賀県赤十字血液センター		
11 長寿社会福祉(レイカディア)センター		
12 福祉用具センター		
13 社団法人滋賀県薬剤師会		
14 中央子ども家庭相談センター		
15 歯科技工士専門学校・総合センター		
16 びわこ学園医療福祉センター草津		
17 精神保健福祉センター		
18 精神医療センター	教育・研究	
19 草津養護学校		
20 むれやま荘		
21 障害者更生相談所		
22 障害者福祉センター		
23 メイブル滋賀工場		
2 龍谷大学瀬田キャンパス		
7 東大津高校		
8 滋賀医科大学		
24 京都大学生態学研究センター		
25 立命館大学びわこ(さつ)キャンパス		
1 県立アイスアリーナ	レクリエーション	
3 都市公園びわこ文化公園		
26 住宅地(大津市青山・松が丘・草津市若草)	住宅	
27 その他	その他	

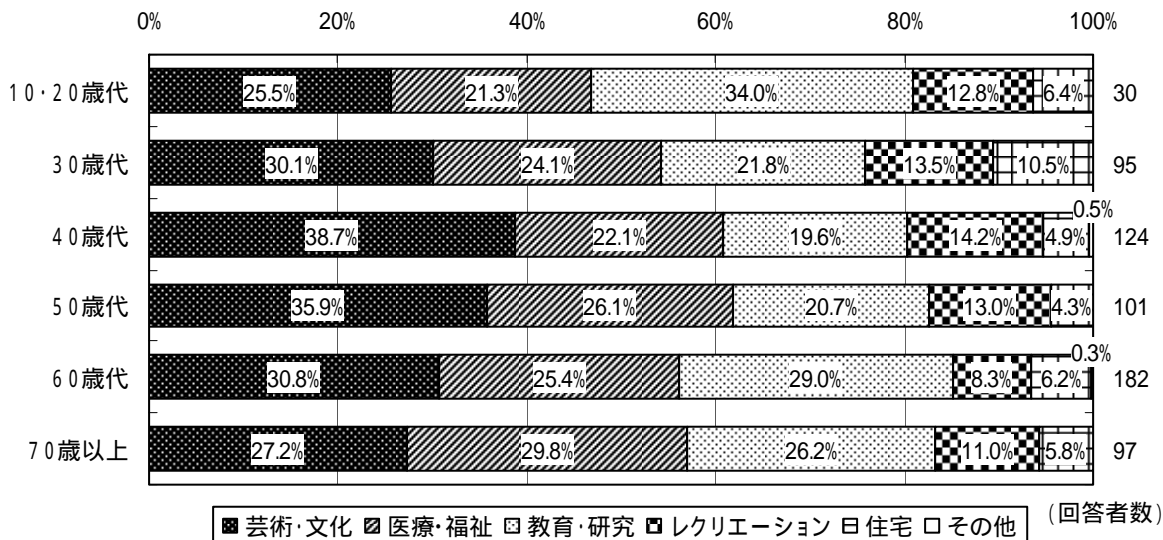


図 - 9 びわこ文化公園都市の利用施設区分と回答者年齢区分の相関

利用施設区分と回答者居住地の相関をみると、びわこ文化公園都市の所在する大津地域、湖南地域では教育・研究施設及び住宅の割合が比較的高くなっている。その他地域では、湖北地域を除き芸術・文化施設の割合が高くなっており、湖北地域では医療・福祉施設の割合が高くなって

いる。またレクリエーション施設は大津地域及び湖東地域からの利用が比較的高くなっている。

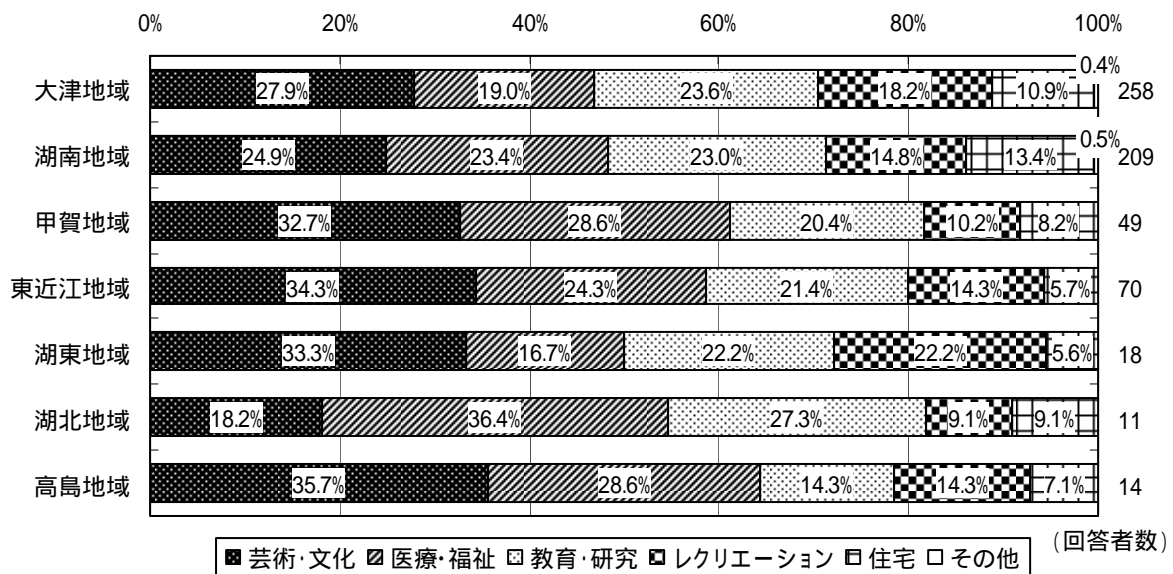


図 - 10 びわこ文化公園都市の利用施設区分と回答者居住地の相関

びわこ文化公園都市のイメージについて「そう思う」と回答した割合が高い上位5項目について、利用施設区分との相関をみると、『自然・緑が豊かで癒される』『文化的な雰囲気があり心豊かになる』の項目について、芸術・文化施設を利用する回答者の割合が比較的高くなっている。

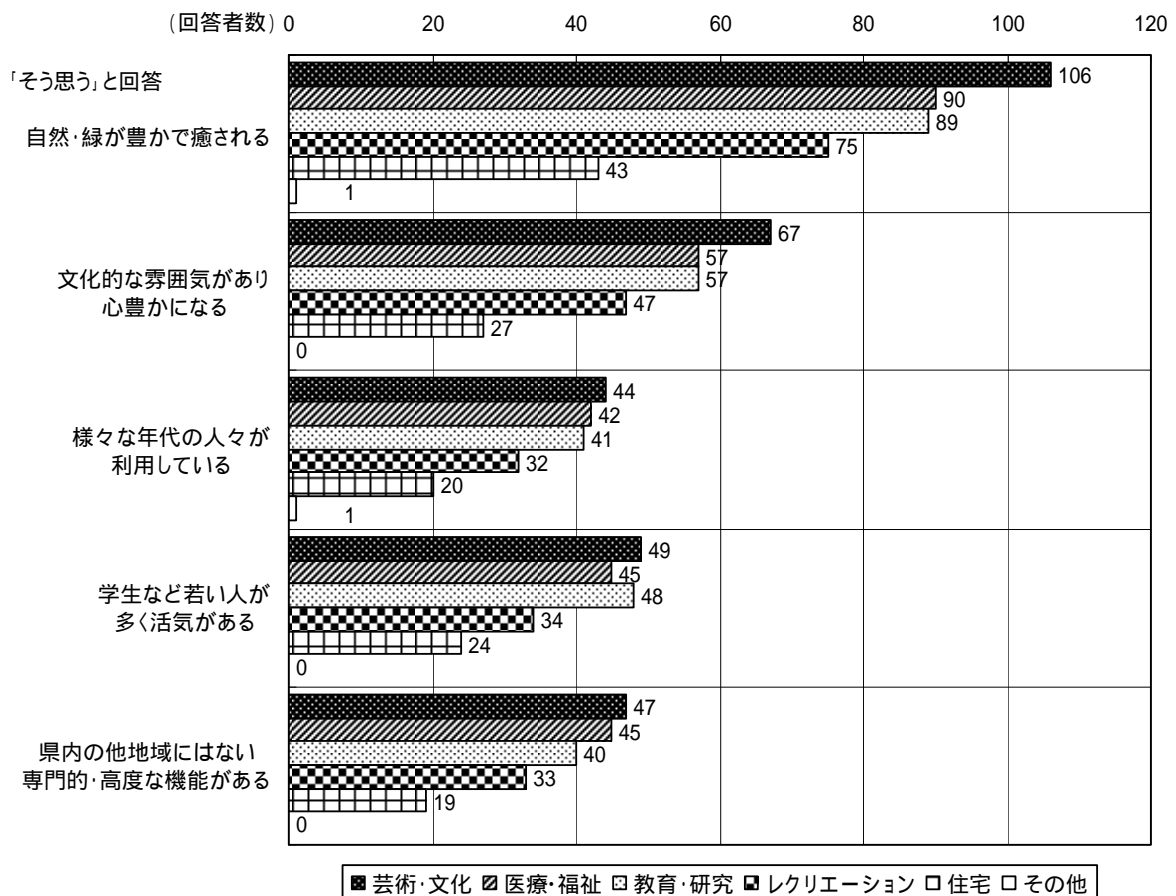


図 - 11 びわこ文化公園都市の利用施設区分とびわこ文化公園都市イメージの相関

(3) 利用交通手段との相関

びわこ文化公園都市への利用交通手段(「よく利用する」と回答した項目)と回答者居住地の相関をみると、各地域とも自家用車の利用が最も高くなっているが、近隣の天津地域、湖南地域、甲賀地域からは自転車や徒歩でのアクセスがみられる。特に天津地域では、自家用車(約73%)、路線バス(約14%)に次いで自転車(約10%)の利用割合が高くなっている。

一方、遠方からのアクセスでは、湖東地域(約33%)、湖北地域(約20%)と、利用者の2割以上が路線バスを利用する。これらの地域からは鉄道-路線バスの乗り継ぎによるアクセスが行われていると考えられる。さらに以遠の高島地域からは、自家用車の利用が100%となる。

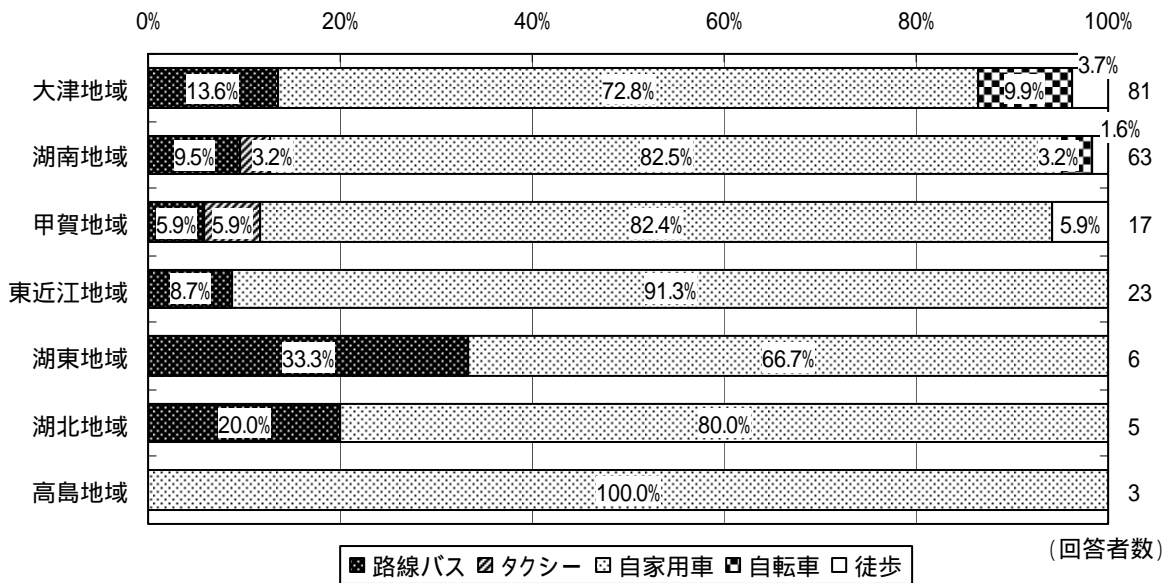


図 - 1 2 びわこ文化公園都市までの利用交通手段と回答者居住地の相関

びわこ文化公園都市への利用交通手段(「よく利用する」と回答した項目)と利用施設の相関をみると、各施設とも自家用車の利用が最も高くなっているが、『中央子ども家庭相談センター』『びわこ学園医療福祉センター草津』『福祉用具センター』等の福祉関係施設において、路線バス利用の割合が高くなっている。

これら福祉館系施設ではまた、タクシーの利用割合も高くなっている。

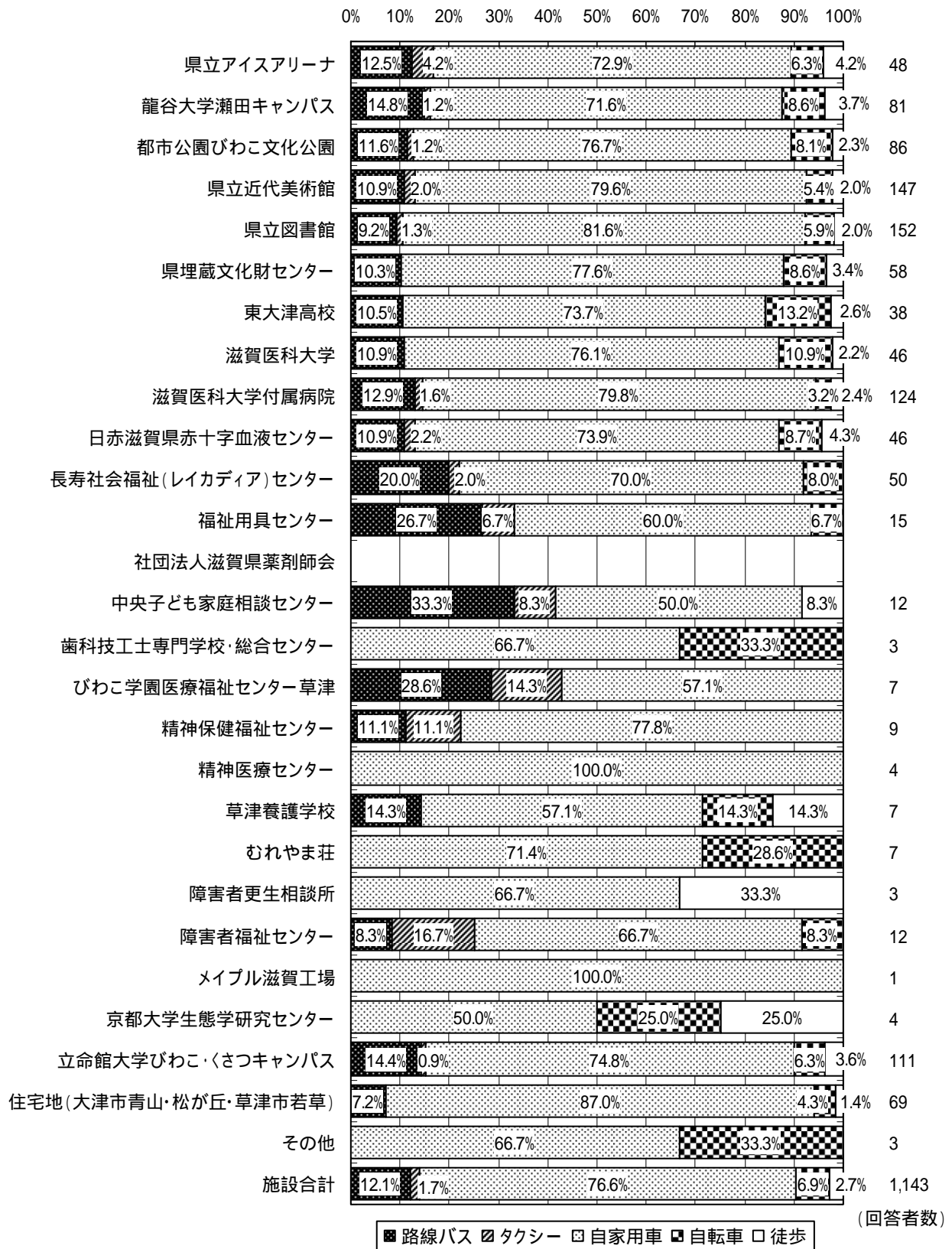


図 - 13 びわこ文化公園都市までの利用交通手段と利用施設の相関